

「健生保育園」 2025 年度 運営方針

年間目標:「**子どもの成長を支える保育**」

保育所保育指針に基づき、「**子どもの成長を支える**保育を実践する」ことができるように「遊び」を通して、3つの力(「**1 主体性**」、「**2 集団生活力**」、「**3 思いやりの心**」)、育める保育環境をチーム保育を中心に実践する。

想定される園児の姿:「**子どもの成長を支える保育**」で育つ園児の姿(各年齢期ごとの姿)

0 歳児の姿

- ・ 安全な環境の中で安心して過ごす
- ・ 寝返り、ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩き、一人立ちの段階を踏んで歩行を獲得する。
- ・ 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える
- ・ 発声、喃語、発語を促し、保育士の話しかけを喜んだり、自分から片言で話し始める。
- ・ 探索行動を十分経験して身のまわりのさまざまな物に興味や関心をもつ。

1 歳児の姿

- ・ 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ
- ・ 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる
- ・ 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ
- ・ 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる
- ・ 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう

2 歳児の姿

- ・ 見立て遊びや簡単なごっこ遊びができるようになる。
- ・ 物をつかめるようになり、鉛筆やクレヨンで曲線やぐるぐる線が描ける
- ・ 自分のしたいことやしてほしいことを言葉で伝えられるようになる。
- ・ 自分の身の回りのことを自分でやろうとする。
- ・ 友達と少しずつ遊べるようになり、並行遊びの時間が増える。
- ・ 粗大運動、微細運動の発達が見られ靴下をはいたり、ジャンプしたり、自分で階段を上り下り体を自在に動かせることが増える。

3 歳児の姿

- ・ 自分の食べられる食材や量を把握し始める。
- ・ 友達に関心を持ち、一緒に遊びたがる。
- ・ 走る・飛ぶ・投げる等の基礎的な動作ができるようになり、全身を使って遊べるようになる。

- 仲間意識が芽生え、みんなで過ごすためには決まりがあることを知り、ルールを守ろうとする。(順番や物の貸し借り、みんなで何かをするのを楽しめるようになる。)同時に、自己主張も芽生え自分の気持ちをわかってほしくて友達とのトラブルが増えてくる。
- 『大きい・小さい』『いっぱい・少し』等がわかるようになり、身近なモノの名称を覚え自分で考えて行動する姿が増えてくる。

4 歳児の姿

- 一日の流れを理解し、身の回りのことは自分でしながら、生活習慣を身につける。
- 集団生活になじめるようになり、周囲の人や物に関心を持ち、社会性のある行動ができるようになる。(友達に声をかけて遊びに誘う、順番を理解して待てる、公共の場のルール・マナーを守ろうとする。)
- 言葉の語彙が増えるだけでなく、理由をもって自己主張したり、時間軸を理解した言葉が増え時系列を明確に説明できることが増えてくる。
- 運動能力の向上により、長時間の散歩や細かい運動ができるようになる。遊具や道具の使い方を理解しながら遊べるようになる。
- 物事の判断ができることが増え、知能や理解力の発達が見られる中でも感情のコントロールが難しく、思ってもいないようなことを発言したり、成長が逆戻りしたような行動をとることもある。

5 歳児の姿

- バランス感覚が育ち、様々な動きを組み合わせた動きができるようになる。
- 自分の意志で意見や出来事を言葉で表現できるようになり、新しい言葉や物事に興味を持ち、それらを使ってみようとする姿が見られるようになる。
- 友達の気持ちを理解し、自分の思いと相手の思いを調整しながら関わられるようになる。ルールやマナーを守れるようになり、社会性を考えた行動ができるようになる。
- 時間、数、量、文字についても興味関心が増え、それらの概念が身についてくる。
- 就学に向け、期待をもって園生活を楽しむ。

3つの力(「1 主体性」、「2 集団生活力」、「3 思いやりの心」)が育まれた姿

- **1 主体性**: 遊びや活動に意欲的に取り組み、自分の考えや気持ちを表現できる。
- **2 集団生活力**: 友達と協力して遊び、ルールを守りながら楽しく過ごせる。
- **3 思いやりの心**: 友達の気持ちに気づき、困っている友達を助けたり、励ましたりできる。物を大切に使う気持ちが芽生える。

「子どもの成長を支える保育」を通しての総体的な姿

- 遊びを通し、子どもが自ら考え行動できる力を育む。
- チーム保育で、互いを尊重し協力する力を養う。
- 遊びの中で、相手の気持ちを理解し共感する心を育む。

① 具体的行動目標

1. **1 主体性**
 - 子どもの興味、関心を尊重し実現するための過程と一緒に考える。
 - 自分で選ぶ経験を積み重ねていけるよう、環境を整えたり、関わったりする。
 - 子どもが自分でやりたいと思える意識を育み、何度も経験させることで身の回りのことに当事者意識を持たせ主体性を育む。
2. **2 集団行動力**
 - 友達と遊びの場やルールを共有することを通して、人とのかかわる楽しさや面白さを知る
 - 友だちや保育者、様々な人と関わり合い、親しみを持つ
 - 子どもがお互いに認め合い、意欲的に行動する中でチャレンジする気持ちや、協力する楽しさを知る。
3. **3 思いやりの心**
 - 相手の気持ちを想像し、寄り添い共感する気持ちを持つことができる。
 - 自分の意見だけでなく、相手の意見や考えも尊重できる。
 - 感謝の気持ちを感じる・知る。
 - 言葉使いが丁寧になる。

② チーム保育行動目標

1. 園児の **1 主体性**を育む
 - 子どもが自分で選んで始めたことは最後まで『見守る』
 - 子どもが選んだものを、保育士が変えない
 - 子どもの興味や好奇心を育てる問いかけを増やす。
 - 保育者と子どもが信頼関係を築く
 - 子どもの『できた』『やれた』ことをわかりやすく褒める。
2. 園児の **2 集団行動力**を育む
 - 少人数の集団から始め、集団行動への自信を育む。
 - 子どもたちの様子をよく見て、変化に気づく。
 - 活動や体験後に振り返りを行う。
 - 集団遊びから子供同士でルールやマナーを覚えていく。
 - 目的や活動内容を事前に明確にし、指導計画のもと余裕をもって保育を行っていく。
 - 年齢の枠にとらわれず、色々な年齢の子供との交流を行う。
3. 園児の **3 思いやりの心**を育む
 - 普段から子ども、職員同士で挨拶、お礼を思うだけでなく言葉で伝える。
 - 色々な人、環境等に触れ合い接する機会を作る。
 - 人や物を大切にすることを一緒に考える。
 - 子どもの話に耳を傾け、よく話す。
 - 思いやりの行動が見られた際は、わかりやすく褒めて伝える。

チーム保育のポイント

- 園児の成長や変化等の情報を共有し保育士の『知らない』を減らす。
- 保護者との連携・情報共有を大切にし、信頼関係の構築をする。
- 子どもに対しての言葉使いや伝え方を丁寧にわかりやすくする。
- 子どもに過度なプレッシャーをかけず、安心して過ごせる場所を提供する。
- 保育士の役割を確立させ自分たちのやるべきことを認識する。
- 研修を通し保育士としての知識、技術を培い職員間で共有する。

具体的な取り組み

- 日誌や計画、記録を振り返り、職員間で情報の共有と再確認、計画の構築を行う。
- 役割分担を明確にし、業務や役割を整理し職員間で割り当てていく。
- 些細なことでも相談し、職場での早期問題解決に向けていく。
- カタグルマを活用し、職員間での情報共有、研修の振り返り、子どものこと等の情報等の共有を行っていく。
- 1on1 を定期的に行い職員の悩みや業務の効率化を図っていく。
- 謙譲語や丁寧語を使い、相手を不快にさせないように、マイナスの表現を減らしていく。

評価方法

- 園児の成長記録や保育日誌、カタグルマの個別日報、各種評価、を参考に、目標達成度を評価する。
- 保護者アンケートや意見交換を通して、保育の満足度を評価する。
- チーム全体で振り返りを行い、改善点を見つける。

以上、2025 年度の運営方針です。

健生保育園では、「**子どもの成長を支える保育**」を目標に、子どもたちが笑顔で楽しく過ごせるよう、誠実に取り組んでいきましょう。